

株式会社 富士山マガジンサービス

「当社のビジネスモデルについて」

2023年8月24日(木)



前回の説明のおさらい

国内最大級の雑誌定期購読サイト「Fujisan.co.jp」及び、デジタル雑誌取次大手の(株)magaportを運営

マーケットプレイス型ビジネスモデル

- ・あらゆるジャンル、約10,000誌の雑誌を取扱うロングテールモデル
- ・原則的に自社在庫を持たず、取扱高に応じて出版社から業務報酬を受領

ストック型 (Subscription型) ビジネスモデル

- ・定期購読契約継続率70%超
- ・高い継続率に基づくストック型 (Subscription型) のビジネスモデル

ストック収益を背景とした継続的な利益を元にした雑誌業界のDX市場への参入

- ・紙雑誌→WEBコンテンツへの転換における大きなビジネスチャンスが存在
- ・デジタル雑誌取次→記事配信事業、電子図書館市場等への展開を目指す

△ 「雑誌の本屋さん」

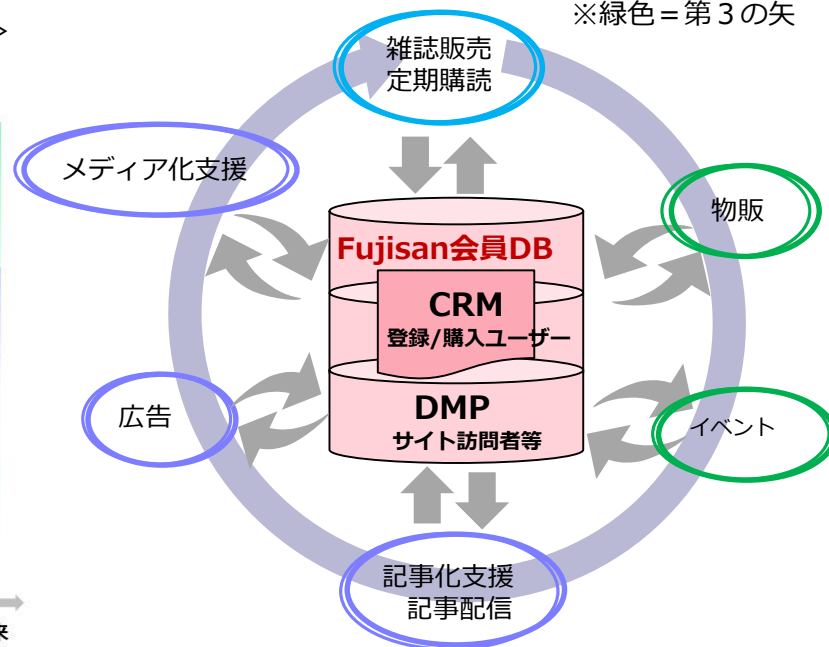
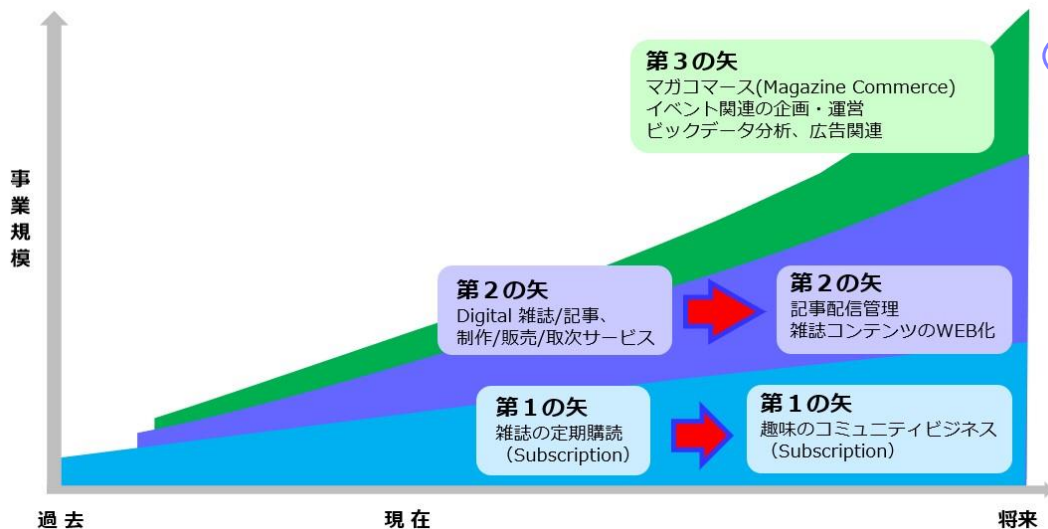
◎ 「趣味・嗜好のマーケットプレイス、ビッグデータ事業者」を目指すDXカンパニー

当社の成長戦略～「Publishingビジネスの未来を創出する」

- 当社の企業価値は、「雑誌販売事業 < 会員の属性データ」と膨大な雑誌に関連するビッグデータ
- 第1の矢（雑誌販売支援事業 = 紙雑誌の書店事業）は、**当社の事業領域の一角**にすぎない
- 当社が目指すのは、①出版社を総合支援する雑誌ビジネス360（=出版ビジネスを取り囲むあらゆる要素を支援）、②雑誌コンテンツ（記事）の活用、雑誌のWEB化、コミュニティ化支援、③雑誌購読者をコアとした、「趣味嗜好」のマーケットプレイス、コミュニティの形成

※水色 = 第1の矢
 ※青色 = 第2の矢
 ※緑色 = 第3の矢

<紙雑誌の販売主体から、購読者管理、コンテンツ管理ビジネスへシフト>



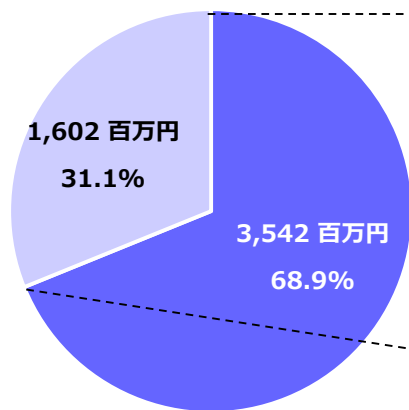
「雑誌の本屋さん」から、電子雑誌取次・WEB化支援事業への拡大

- デジタル雑誌の取次においては「読み放題」サービスを中心に順調に取引拡大
- マイクロコンテンツ化については、記事情報配信（B2B）分野で提供開始

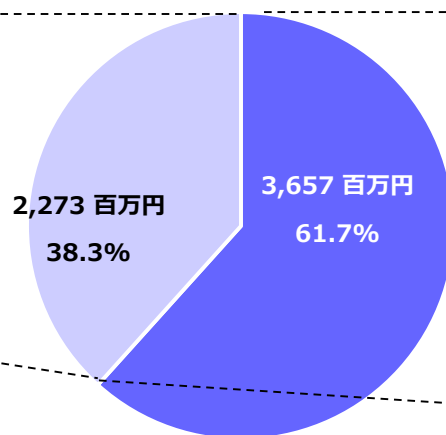


- × : デジタル雑誌（PDF雑誌）の取次事業
- : 雑誌記事データのデータバンク・記事配信管理プラットフォームとしての(株)magaportの位置づけを強化

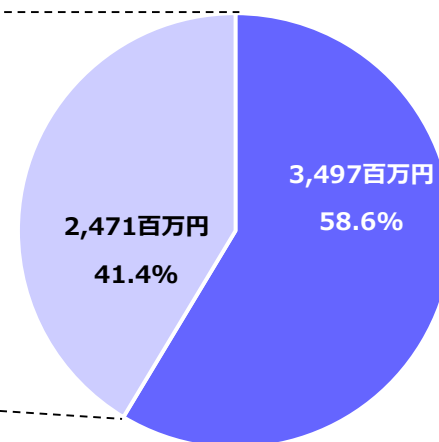
【2020年売上高】



【2021年売上高】



【2022年売上高】

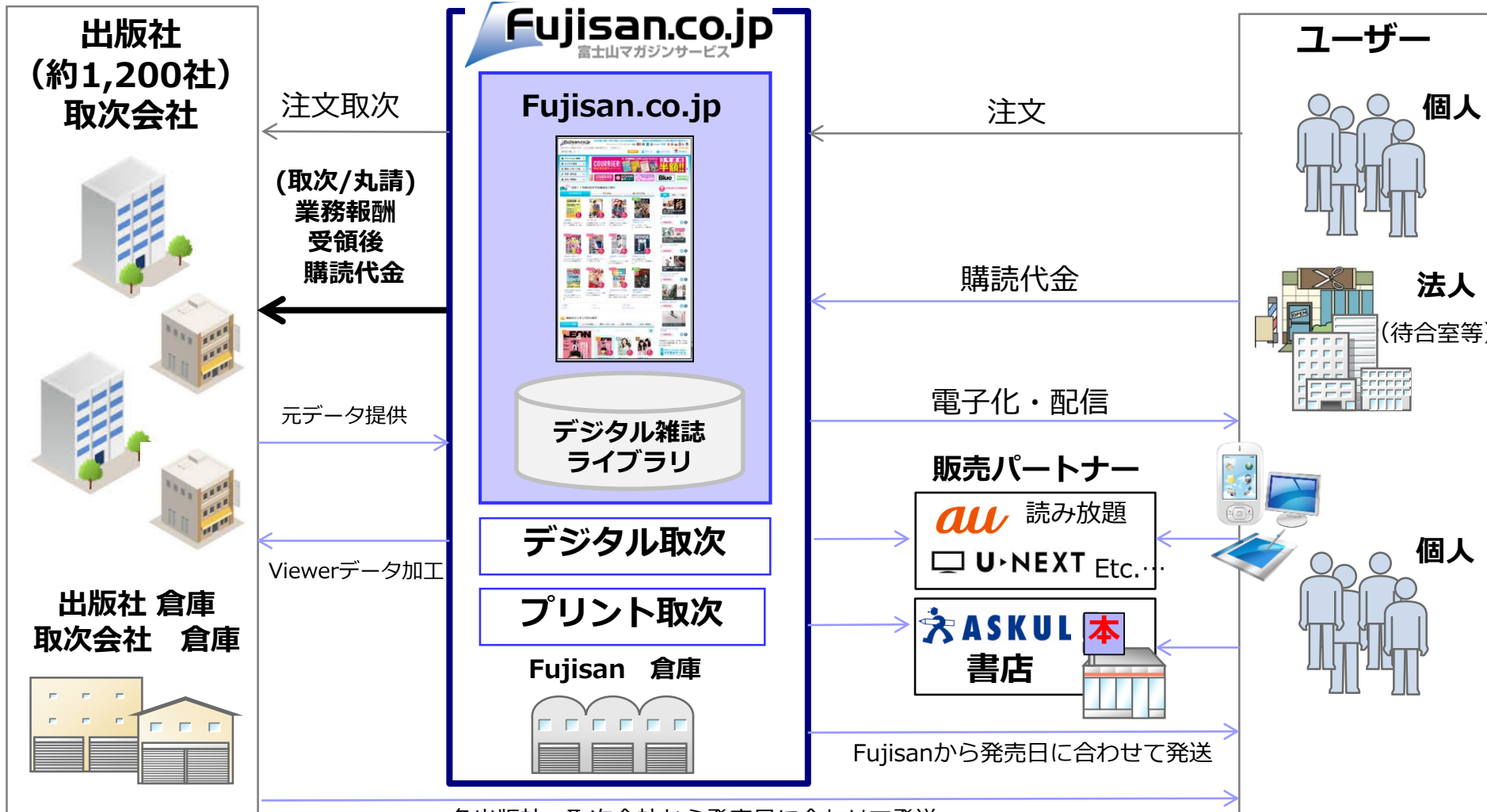


| (単位: 百万円) | 2020年 | | | | 2021年 | | | | 2022年 | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-------------|
| | 当社 | 連結 子会社 | 連結 | 連結子会社 比率 | 当社 | 連結 子会社 | 連結 | 連結子会社 比率 | 当社 | 連結 子会社 | 連結 | 連結子会社 比率 |
| 売上高 | 3,542 | 1,602 | 5,144 | 31.1% | 3,657 | 2,273 | 5,930 | 38.3% | 3,497 | 2,471 | 5,968 | 41.4% |
| 営業利益 | 362 | -39 | 323 | -12.1% | 442 | 83 | 525 | 15.8% | 395 | 48 | 443 | 10.8% |

※当社分は連結相殺後の数字

事業内容及び収益構造① 第1の矢 マーケットプレイス事業

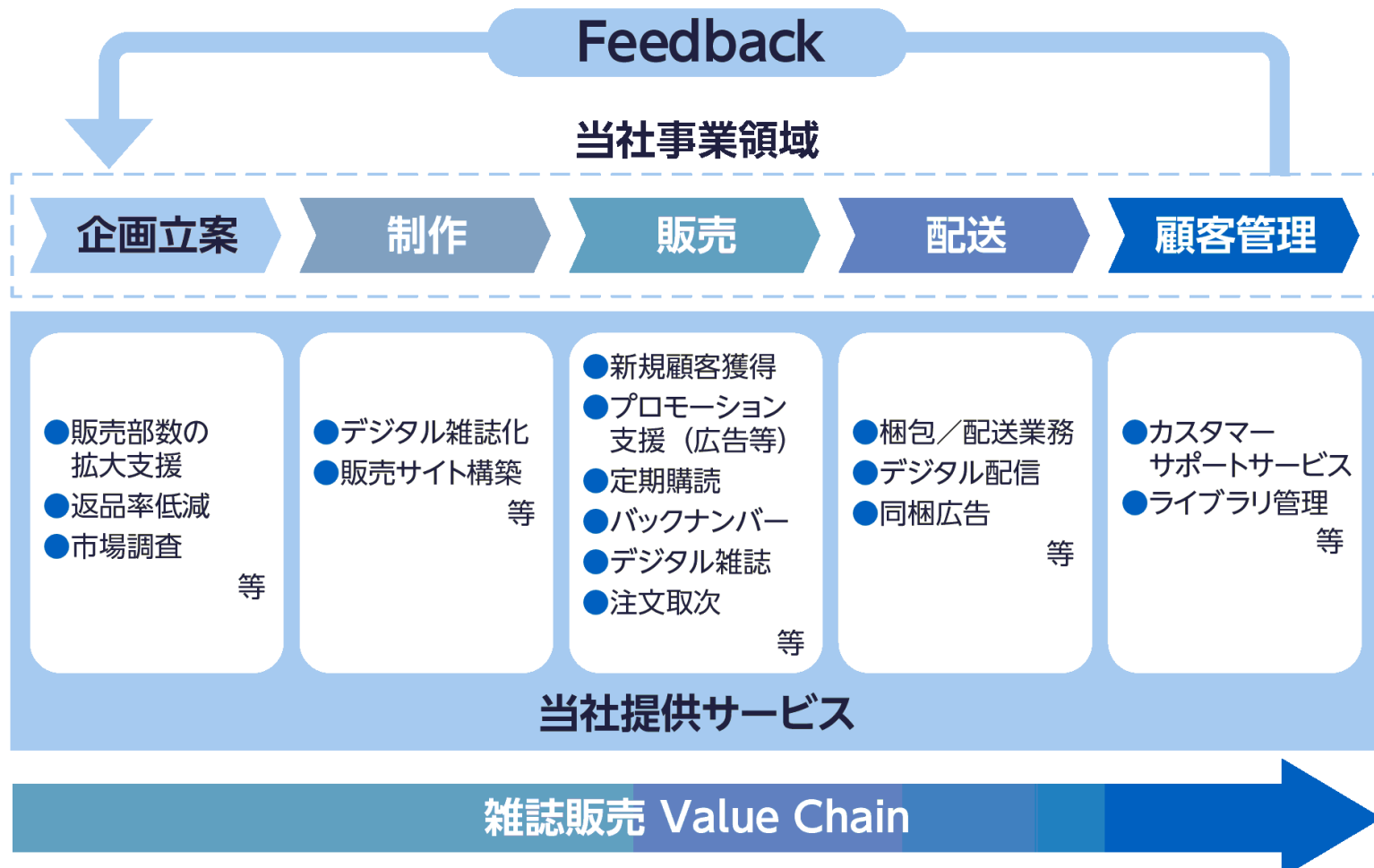
雑誌販売支援に伴い出版社から「業務報酬」を受領
マーケットプレイス型、原則自社在庫を持たないビジネスモデル



各出版社、取次会社から発売日に合わせて発送

事業内容及び収益構造② 雑誌ビジネス360 出版社支援事業（請負事業）

- ▶ 定期購読業務に必要なオペレーション等をすべて請け負うことが可能
- ▶ 収益は業務請負によるFeeビジネス



事業内容及び収益構造③ 第2の矢 第3の矢（雑誌のWEB化、DB事業）

【第2の矢：雑誌のWEB化】

Digital 雑誌／記事、制作／販売／取次サービス→ **雑誌のWEB化支援事業**



【第3の矢：雑誌購読者のデータ活用等 趣味嗜好性の高い属性情報を利用した新規事業】

EC、イベント、ファンクラブ等→ **M&A、他社との提携等による非連続的な成長を目指す領域**



免責事項及び開示タイミング

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。